

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320149

研究課題名(和文) 近世帝国としてのサファヴィー朝史研究：多元性と均質性の相克

研究課題名(英文) The Safavid State as an Early Modern Empire

研究代表者

近藤 信彰 (Kondo, Nobuaki)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：90274993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究で、16 - 18世紀にイラン高原を支配したサファヴィー朝の近世帝国としての側面を明らかにした。従来言われていたようなイラン国民国家やトルコ系遊牧部族国家という側面を離れて、オスマン帝国やムガル帝国と比較可能な、強力な官僚機構を持った多民族、多宗派の帝国としてのサファヴィー朝を描くことに成功した。ただし、宗教と言語の面においては、シーア派とペルシア語という二つの要素が、次第に支配的になっていく過程も認められた。そして、この二つの要素は、現在に至るイラン・アイデンティティの中核となっているのである。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the Safavid State, which ruled over Iranian plateau from the 16th to the 18th century, as an early modern empire. Although the state was considered as the Iranian nation-state or the Turko-Mongol nomadic state, this study described the state as a multi-ethnic and multi-religious empire, which can be compared with the Ottoman and Mughal Empires. However, in terms of religion and language, one can also see the process of Shi'itization and Persinazation. Later, these two elements would be the core of the Iranian identity until today.

研究分野：西アジア史、イラン史

キーワード：近世帝国 シーア派 ペルシア語 トルコ・モンゴル 国民国家

1. 研究開始当初の背景

サファヴィー朝は長らくイランの王朝と考えられてきた。王朝の成立を持って「イラン国民国家」とする考え方は批判をうけて久しかったが、それでも、イランの王朝であるという見解は根強いものがあった。

もう一つの考え方は、サファヴィー朝はトルコ・モンゴル系遊牧国家とするものであった。確かに、初期においてはそのような傾向を持っていたことは否定できないが、それでは後期サファヴィー朝をどうとらえるべきかという問題が残っていた。

本研究が目したのは、第3の見方、近世帝国としてとらえる考え方であった。後期サファヴィー朝に関する研究が進んだ結果、この見解が可能となってきたが、日本国内では十分な議論が行われていなかった。多元的帝国がいかに均質的なイランを形成するにいたったのか、そのメカニズムの解明が望まれていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近世帝国としてのサファヴィー朝の側面を、多元性と均質性の両面から明らかにすることにあった。従来の「国民国家」説、遊牧部族国家説に対して、後期サファヴィー朝に対する関心の高まりにより、多元的な近世帝国としての姿が少しずつ明らかになりつつある。しかし、後代から見ればシーア派化などイランに均質性をもたらした点も無視できない。この二つの面がどのように関係しているのか、日本人研究者が得意とする写本や文書史料を含む現地語史料を利用して、国制や社会経済構造を明らかにしつつ、サファヴィー朝がいかなる意味で帝国と呼べるのかを示すことを目的とした。そして、その成果を国際学界に発信していくことを目的とした。

3. 研究の方法

研究計画の柱は現地語史料の網羅的な調査・利用と国際発信であった。研究の基礎となる現地語史料の網羅的な調査のためイランやコーカサス、ヨーロッパ等に海外出張を行った。特にイランは、欧米の研究者にはアクセスが難しく、大きな成果がえられた。得られた成果を共有すべく、国内研究会を開催した。また、国際シンポジウムでサファヴィー朝のパネルを持ち、2013年には7名の研究者を海外より招聘して国際シンポジウムを行った。現在、国際シンポジウムのペーパーを元に、英文論集を編集集中であり2015年中に出版できる見込みである。

4. 研究成果

(1) サファヴィー朝の近世帝国としての性格を明らかにした。サファヴィー朝が、カラ・コユンル、アク・コユンルなどトルコ・モンゴル遊牧国家の系譜を引いていることは明らかであり、また、現在のイランという

国家の形成の過程において、重要な位置を占めることも確かである。しかしながら、これらの事実は必ずしも、サファヴィー朝がトルコ・モンゴル系遊牧国家であることや、イラン国民国家であることを意味しない。同時代に即して見るならば、前田弘毅の諸論文や英文論集に収められる予定の山口昭彦、Sebah Aslanian、守川知子の論文が示すように、とくに17世紀以降は、多宗派、多民族の国家であることは明らかである。また、後藤裕加子の著書や近刊予定の近藤信彰の研究が示すように、中央と地方の官制は、帝国と呼ぶにふさわしい整った制度を備えていた。

この意味で、サファヴィー朝は、オスマン帝国やムガル帝国と比較可能な近世イスラム帝国であると言える。現在のイランには含まれない、もしくは数の少ない、グルジア系、アルメニア系、インド系などの人々が十分に活躍する場面があったのが、サファヴィー朝なのであり、その意味で現在のイランと同一視することはできない。

(2) 宗教と言語における均質化の進展

多元的な要素を含んだ帝国であったサファヴィー朝であったが、現在のイランにつながるような傾向も同時に認められることが明らかとなった。そのうち、最も重要なのはシーア派化の進展である。Rula Abisaabの著書や英文論集収録予定の近藤信彰論文が示すように、サファヴィー朝はシーア派学者の招聘や宗教寄進などを通じて、シーア派信仰を広めることに力を注いだ。サファヴィー朝下で直接支配を受けていた地域は、現在ではほぼ完全にシーア派化しており、その影響力は決定的なものである。サファヴィー朝がシーア派信仰を広めたことは、西アジアの宗派分布を大きく変え、今日の状況の基礎を築いたといえる。

もう一つ、見逃してはならないのはペルシア語化の進展である。16世紀初めの時点では、ペルシア語と並んで、ティムール朝下で保護されたチャガタイ・トルコ語が文語として一定の地位を保っていた。しかし、キジルバシュと呼ばれるトルコ系の部族が建国に大きな役割を果たしたにもかかわらず、チャガタイ・トルコ語による韻文・散文の作品は、サファヴィー朝化で激減していくことになる。その理由は、一つには、ティムール朝と異なって、サファヴィー朝は積極的にトルコ語の作品を保護しなかったこと、サファヴィー朝期は文人のインド移住が激しく、移住先のムガル朝では圧倒的にペルシア語の作品が好まれたことが挙げられる。サファヴィー朝下で、宗教を除いた分野で文語がペルシア語に収斂していくことは、宗教と同様に、この地域に一定の均質性をもたらした。たとえ、多民族の社会で、たとえペルシア語を母語としないものでも、ペルシア語で著作することが、完全に確立したのである。これは、のちにペルシア語が国語となる基礎を築いたと言え

る。

(3) イラン史におけるもしくは同時代の世界におけるサファヴィー朝の位置づけを、明らかにした。英文論文集に収録予定の Sholeh Quinn の論文は、歴史叙述の伝統をサファヴィー朝とムガル帝国で比較するもので、同時代の共通性とそれぞれの相違点を示した重要な論文である。やはり同論文集の Aslanian 論文は、サファヴィー朝の首都イスファハーン郊外におかれたアルメニア地区ジョルファーが、世界を股にかけたアルメニア商人の商業活動の中心であったことを示した。近藤論文は、サファヴィー朝のワクフ政策が前後の時代に例を見ない中央集権的なものであることを指摘し、山口論文はサファヴィー朝の遺産が後代のクルド系住民に与えた影響を明らかにした。サファヴィー朝期が前後の時代とはかなり異なった特別な時代であることを示すと同時に、その影響が今まで強く及ぶ歴史的意義が明らかとなった。

(4) 研究成果を国際的に発信することに成功した。英語による論文9件、ドイツ語による単行本1件、海外の学会における発表19件は、大きな成果と言える。さらに、6名の外国人研究者を招聘して行った国際シンポジウム "Mapping Safavid Iran" は、参加者に極めて好評であり、やや停滞気味であったサファヴィー朝研究に新たな動力を生むものとして、高く評価された。このシンポジウムをもとにした英文論文集も刊行の予定であり、日本の研究が世界をリードしうる水準にあることを証明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

1. Nobuaki Kondo: "The Lives of Qabalahs: Annotation, Transcription, and Registration of Documents in Early Modern Iran." *Eurasian Studies* 12(2014): 561-575. 査読有
2. Nobuaki Kondo: "Migration and Multiethnic Coexistence in Qajar Tehran." In Hidemitsu Kuroki ed. *Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies* 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut, 5-25. Fuchū: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, 2015. 査読無
3. 後藤裕加子「サファヴィー朝後期のシャーの移動と「統治の都」」『人文論究』64(2014): 29-57.
4. 後藤裕加子「イスラーム書物の形と制作技術」小杉泰, 林佳世子(編), 『イスラーム書物の歴史』名古屋, 名古屋大学出版会. 2014.

116-135. 査読無

5. 後藤裕加子「サファヴィー朝のペルシア語写本」小杉泰, 林佳世子(編), 『イスラーム書物の歴史』名古屋, 名古屋大学出版会. 2014. 222-238. 査読無
6. Tomoko Morikawa. "Pilgrims beyond the Border: Immigration at Khaneqin and its Procedure in the Nineteenth Century." *Memoirs of the Research Department of Toyo Bunko*. 75(2015): 1-30. 査読有
7. Nobuaki Kondo: "Between Tehran and Sultaniyya: Early Qajar Rulers and their Itinerates" *Turko-Mongol Rulers, Cities and City Life* 1. 385-416 (2013), 査読有
8. 近藤 信彰: 「アフガニスタンの司法改革——イスラーム法裁判制度を中心に」『シャリーアとロシア帝国——近代中央ユーラシアの法と社会』. 188-208 (2014), 査読無
9. Akihiko Yamaguchi: "Iran Kurdistan'i'n Safeviler Donemindeki Kisa Bir Tarihi" *Kurt Tarihi* 7. 28-33 (2013), 査読無
10. 山口 昭彦: 「後期サファヴィー朝有力家系の戦略的資産形成: ザンギャネー族の「財産目録」を手がかりに」『アジア・アフリカ言語文化研究』86. 31-54 (2013), 査読有
11. 守川 知子: 「サファヴィー朝の対シャム使節とインド洋——『スレイマーンの船』の世界」『史朋』46. 1-34 (2013), 査読有
12. 守川 知子: 「地中海を旅した二人の改宗者——イラン人カトリック信徒とアルメニア人シーア派ムスリム」『地中海世界の旅人移動と記述の中近世史』1. 257-284 (2014), 査読無
13. 近藤 信彰: 「19世紀テヘランのマドラサとワクフ」『アジア・アフリカ言語文化研究』84. 67-104 (2012), 査読有
14. 前田 弘毅: 「ツアーリとシャーに仕えたアルメニア人: 「言葉の箱」と呼ばれた一族の活動から」塩川伸明・小松久男・沼野充義・宇山智彦編『ユーラシア世界1<東>と<西>』1. 127-152 (2012), 査読無
15. Hirotake Maeda: "Exploitation of the Frontier: The Caucasus Policy of Shah 'Abbas I'" Willem Floor and Edmund Herzig (eds.), *Iran and the World in the Safavid Age*. IB. Tauris. 1. 471-489 (2012), 査読無
16. Tomoko Morikawa: "Pilgrimages to the Iraqi

'Atabat from Qajar era Iran" P. Khosronejad ed. *Saints and their Pilgrims in Iran and Neighbouring Countries*. Sean Kingston Publishing 1. 41-59 (2012), 査読有

17. Akihiko Yamaguchi: "Shah Tahmasp's Kurdish Policy" *Studia Iranica* 41. 101-132 (2012), 査読有

18. 近藤信彰: 「19世紀後半のテヘランのシャリーア法廷」『東洋史研究』70. 420-389 (2011), 査読有

19. 山口昭彦: 「サファヴィー朝(1501-1722)とタルド系諸部族: 宮廷と土着エリートの相関関係」『歴史学研究』885. 157-166 (2011), 査読無

20. 前田弘毅: 「「境界」を突破するもの サファヴィー朝に仕えたグルジア武人の活動から」『歴史学研究』881. 22-33 (2011), 査読有

21. Hirotake Maeda: "Slave Elites Who Returned Home : Georgian Vali-king Rostom and the Safavid Household Empire" *Memoir of Research Department of Toyo Bunko* 71. 97-127 (2011), 査読有

〔学会発表〕(計33件)

1. 近藤信彰: 「後期サファヴィー朝の財務行政」『王達の慣わし』に基づいて、「近世イスラーム国家と周辺世界」研究会. 2015年2月22日

2. Akihiko Yamaguchi. "Evolution of Center-Periphery Relations as Seen from the Appointment Orders of Local Clerics: The Case of Ardalan Province in the 18th-19th Centuries." The Tenth Biennial Conference of the International Society for Iranian Studies. 2014年8月9日 Hilton Bonaventure Hotel, Montreal.

3. Tomoko Morikawa. "Imam Veneration and Pilgrimage to their Tombs (from Iran to Ottoman Iraq)." "International Workshop on Shiite Saint Veneration in Comparative Studies. 2014年5月11日 Isfahan University.

4. Morikawa Tomoko. "Bisotun and Iranian Historiography of the Qajar Period." Fourteenth IQSA (International Qajar Studies Association) Conference: Literature and Writing in Qajar Iran. 2014年5月30日 Otto-Friedrich University Bamberg.

5. 近藤信彰: 「サファヴィー朝後期の中央・地方関係」『王達の慣わし』新写本に基づいて、日本中東学会第29回年次大会. 2013年5月12日. 大阪大学豊中キャンパス

6. Nobuaki Kondo: "Shahr-e Tehran dar dowre-e Safaviye" Special Seminer (招待講演). 2013年9月9日. Institute for Political and International Studies, Tehran

7. Nobuaki Kondo: "Judicial Reform and Sharia in 19th Century Iran." NIHU Program for Islamic Area Studies. Fourth International Conference. 2013年11月4日. Lahore University of Management Sciences

8. Nobuaki Kondo: "State and Religious Authority in Practice: Vaqf Administration under the Safavids and the Qajars" International Conference "Mapping Safavid Iran". 2013年11月30日. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

9. Akihiko Yamaguchi: "Mediating between the Court and Kurdistan: the Zangane Family under the Safavid State" Kurds and Kurdistan in Ottoman Period. 2013年4月16日. Salahaddin University, Erbil, Iraq

10. Yamaguchi Akihiko: "Safavid Legacy Seen from a Periphery: The Ardalan and Iran's Shahs" International Conference "Mapping Safavid Iran". 2013年11月30日. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

11. Tomoko Morikawa: "Siamese Court Culture through the Eyes of an Iranian Shi'ite Muslim: An Analysis on The Ship of Sulayman (Safina-yi Sulaymani)" 8th International Convention of Asia Scholars. 2013年6月24日. Venetian Macao-Resort-Hotel, Macao

12. Tomoko Morikawa: "A Shi'ite Armenian in the Late Seventeenth Century" International Conference "Mapping Safavid Iran". 2013年12月1日. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

13. 後藤裕加子: "歴史学における言語教育" 日本中東学会第29回年次大会. 2013年5月11日. 大阪大学豊中キャンパス

14. Yukako Goto: "Regional Cities as Nodes in the Network of the Safavid Political System" International Conference "Mapping Safavid Iran". 2013年11月30日. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

15. Nobuaki Kondo: "The Making of Qajar Tehran: Construction, Migration, Minorities" Middle East Centre, Lunch Seminer (招待講演). 2012年5月1日. The Middle East Centre, University of Oxford

16. Nobuaki Kondo: "Shari'a Court Records from Nineteenth Century Tehran" The Ninth Biannual Iranian Studies Conference. 2012年8月1日-5日. Hotel Conrad Istanbul

17. Yukako Goto: "Safavid Subcenters and their Functions" The Ninth Biannual Iranian Studies Conference. 2012年8月1日-5日. Hotel Conrad Istanbul

18. Akihiko Yamaguchi: "Settlement Patterns and the Religious Composition of Early Eighteenth-Century Iran According to Ottoman Fiscal Surveys" The Ninth Biannual Iranian Studies Conference. 2012年8月1日-5日. Hotel Conrad Istanbul

19. 後藤 裕加子: 「ヨーロッパ人旅行者のサファヴィー朝宮廷訪問」日本オリエント学会第54回大会. 2012年11月24日-25日. 東海大学

20. 山口 昭彦: 「宮廷と辺境を媒介する: クルド系諸部族の統合とザンギャネー族」日本オリエント学会第54回大会. 2012年11月24日-25日東海大学

21. 守川 知子: 「シーア派政権サファヴィー朝と改宗問題 あるアルメニア人シーア派ムスリムの軌跡」日本オリエント学会第54回大会. 2012年11月24日-25日. 東海大学

22. 守川 知子: 「サファヴィー朝の対シャム使節とインド洋」第262回北大東洋史談話会. 2013年2月11日. 北海道大学

23. Tomoko Morikawa: "Memory Places and Funerals in the Shi'ite Society" Mythes, rites et emotions: les funerailles le long de la route de la soie (Myths, Rites and Funerals: Dead along the Silk Road). 2013年3月8日. Universite Paris 7

24. Tomoko Morikawa: "Sugar for sweets, foods and medicines in early modern Persia", Session: Sugar in Early Modern Asia: Production, Trade and Consumption Culture" Workshop: Sugar and Slavery towards a New World History. 2012年11月18日. The University of Tokyo

25. Hirotake Maeda: "Western and Southern Georgia from Persian Perspective: From a Bibliographical References on Manuchar III Jaqeli, Atabagi of Samtskhe" 2nd International Conference Tao-Klarjeti. 2012年9月8日. Batumi Shota Rustaveli State University

26. Akihiko Yamaguchi: "Iran 's Kurds (Akrad-e Iran) in Sharaf-name: Safavid Integration Policy and Forced Relocation of Kurdish Tribes to Khorasan" Konferentsii po kurdovedeniju Treti .

<Lazarevskie chtenija> (「クルド研究会議: 第3回ラザレフ記念連続講演会」. 2012年5月14日. Institute of Oriental Studies, Moscow

27. Nobuaki Kondo: "Another Manuscript of Dastur al-Muluk" The Seventh European Conference of Iranian Studies. 2011年9月7日. Jagiellonian University, Krakow, Poland

28. Tomoko Morikawa: "Shah Isma'il and the unknown manuscript" The Seventh European Conference of Iranian Studies. 2011年9月7日. Jagiellonian University, Krakow, Poland

29. Akihiko Yamaguchi: "Economic Integration of Iranian Kurdistan into Safavid Iran" The Seventh European Conference of Iranian Studies. 2011年9月7日. Jagiellonian University, Krakow, Poland

30. 山口 昭彦: 「サファヴィー朝(1501-1722)とクルド系諸部族: 宮廷と土着エリートの相関関係」歴史学研究会大会合同部会. 2011年5月22日. 早稲田大学(招待講演)

31. 山口昭彦: 「サファヴィー朝の多民族統合と移住政策: クルド系諸部族の東部移住をめぐって」日本オリエント学会大会. 2011年11月20日. ノートルダム清心女子大学

32. Nobuaki Kondo: "Development of Hawzas in Qajar Tehran" The Final Conference of the project "Clerical Authority in Shi'ite Islam : Studying the Hawza's". 2012年3月30日. Keble College, University of Oxford, UK

33. Nobuaki Kondo: "Survival of a Vaqf with Changes: The Chahardah Ma'sum Vaqf in Tehran" Friday Seminar, Oriental Institute. 2012年2月24日. Oriental Institute, University of Oxford, UK(招待講演)

〔図書〕(計3件)

1. Yukako Goto: "*Die sudkaspischen Provinzen unter den Safawiden im 16. und 17. Jahrhundert*" Schwarz, Berlin. 290 (2011)

2. 近藤信彰(編): 『ペルシア語文化圏史研究の最前線』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 179p. (2011)

3. Nobuaki Kondo ed. *Mapping Safavid Iran*. ILCAA. Tokyo University of Foreign Studies. forthcoming in 2015.

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤 信彰 (KONDO, Nobuaki)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：90274993

(2) 研究分担者

後藤 裕加子 (GOTO, Yukako)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：80351724

守川 知子 (MORIKAWA, Tomoko)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：00431297

山口昭彦 (YAMAGUCHI, Akihiko)
聖心女子大学・文学部・教授

(平成 23～24 年度)
前田弘毅 (MAEDA, Hirotake)
首都大学東京・人文科学研究科(研究院)・准教授
研究者番号：90374701

(3) 連携研究者

()

研究者番号：